

## 標準委員会 第48回基盤応用・廃炉技術専門部会議事録

1. 日 時：2020年11月13日（金）9:30～12:05

2. 会議方式：Web会議

3. 出席者（敬称略）

（出席委員）萩原部会長，石川副部会長，湊幹事，石川，北島，坂本，佐田，田中（健），  
田中（正），張，野依，日比，増田，松本，山路，山本，吉田（17名）

（欠席委員）藤井（1名）

（説明者） 【廃止措置分科会】田中（健）幹事（1名）

（事務局） 田老，牧野（2名）

4. 配付資料

ATC48-0 第48回基盤応用・廃炉技術専門部会議事次第（案）

ATC48-1 第47回基盤応用・廃炉技術専門部会議事録（案）

ATC48-2 人事について

ATC48-3-1 “原子力施設の廃止措置の基本安全原則：20XX” 制定の中間報告に関する標準  
委員会意見募集結果について

ATC48-3-2 “実用発電用原子炉施設の廃止措置の計画：20XX” 改訂の中間報告に関する  
標準委員会意見募集結果について

ATC48-3-3 “原子力施設の廃止措置の基本安全原則：20XX” 及び“実用発電用原子炉施  
設の廃止措置の計画：20XX” 制定の中間報告に関する標準委員会意見募集で  
受け付けた意見への対応について

ATC48-4-1 標準作成ガイドラインの改定提案

ATC48-4-2 標準作成ガイドラインの新旧比較について

ATC48-4-3 JIS Z 8301：2019 と標準作成ガイドラインとの比較検討

ATC48-4-4 標準作成ガイドラインの改定についての御意見への対応

ATC48-4-5 標準作成ガイドラインの見直し版

ATC48-5 分科会活動状況

ATC48-6-1 標準策定5か年計画の公開に向けて

ATC48-6-2 標準策定5か年計画の更新ガイドライン（抜粋）

ATC48-6-3 標準委員会の標準策定5か年計画の更新について（依頼文書：ドラフト版）

参考資料

ATC48-参考1 基盤応用・廃炉技術専門部会委員名簿

ATC48-参考2 基盤応用・廃炉技術専門部会出席実績

講習資料

ATC48-講習資料 標準委員会における倫理について

5. 議事内容

（1）倫理教育

2020年度の倫理教育は、9月9日の第81回標準委員会において実施した。専門部会では、

多くの委員は、標準委員会に参加しているが、部会内での議論はされていないことから、倫理教育での問いかけを中心に限られた時間であったが議論した。  
総括すると次のとおりである。

- 部会には標準に対する専門性が必要であると同時に標準として使われることが重要である。このために、使用者のニーズに答えるとともに、標準が十分に合理性を確保していることが必要である。
- 基盤応用・廃炉技術専門部会では、取り扱う技術の幅が広く関係する組織が多いことで、正確な情報に立脚した標準になっている反面、迅速性の観点で意思決定に時間が掛かることが課題との問題提起があった。

## (2) 出席者確認

事務局から開始時点で委員18名中、17名の出席があり、委員会成立に必要な委員数（12名以上）を満足している旨、報告があった。

## (3) 前回議事録の確認（ATC48-1）

前回議事録（案）について配付された内容で承認された。

## (4) 人事について（ATC48-2）

事務局からATC48-2に基づき、専門部会及び分科会の人事について以下の提案があり、専門部会委員の退任が確認され、審議の結果、専門部会委員の再任等が決議された。

### 【専門部会】

#### 1. 決議事項

##### (1) 委員再任

石川 顕一	東京大学	2021. 02～2023. 01
北島 庄一	電力中央研究所	2021. 03～2023. 02

#### 2. 確認事項

##### (1) 委員退任

宮坂 靖彦	原子力バックエンド推進センター	2020. 10. 31
-------	-----------------	--------------

### 【分科会】

#### ○放出源の有効高さ評価分科会

##### 1. 承認決議事項

##### (1) 委員選任

畠 大悟	北陸電力
------	------

## (5) 報告・審議

### 1) 【報告・審議】（ATC48-3-1～3-4）

“原子力施設の廃止措置の基本安全原則：20XX”及び“実用発電用原子炉施設の廃止措置の計画：20XX”制定の中間報告に関する意見募集結果及び受け付けた意見への対応について（担当：廃止措置分科会 田中幹事）

事務局からATC48-3-1に基づき、題記“原子力施設の廃止措置の基本安全原則：20XX”の中間報告に関する標準委員会意見募集の結果、5名の委員から意見があった旨及びATC48-3-2に基づき題記“実用発電用原子炉施設の廃止措置の計画：20XX”の中間報告に関する標準委員会意見募集の結果、3名の委員から意見があった旨の報告があった。引き続き廃止措置分科会 田中幹事からATC48-3-2～3-4に基づき、頂いた意見への対応案について説明があり、一部委員への意見対応が未対応であることから、再度分科会で取り纏め、次回専門部会に報告することになった。

主な質疑，コメント等は以下のとおり。

- Q1：（標準委員会）河井委員（退任）の意見として，政府や規制に対する規定を設けることに否定的であるが，これに対して分科会ではどういう見解の下，現行のままとすることにしたのか。
- A1：廃止措置という事業を安全かつ合理的に実施し終了していくためには，法令の枠組みを整備する政府，安全規制を行う規制及び実施者がそれぞれの役割を果たすことが必須の事項である。このことは IAEA GSR Part 6 にも明確に示されていることである。国内の廃止措置に係る専門家の集まりである廃止措置分科会がこのようなことを承知した上で敢えてそれを規定しない理由はないというのが総意である。政府だから，規制だからとって言うべきことを言わず，事業者に対してだけ要求事項を規定するのは公平とは言えないという立場である。
- C1：意見の回答には，いま説明のあった見解に至る検討の経緯，裏付けとなる文献などを丁寧に説明すべきである。
- A1(2)：拝承，当該の部分に追記する。
- Q2：標準の名称の変更に対する意見についても専門部会，標準委員会で議論があったというだけではなく，その経緯を明示（列記）した上で，分科会としての判断の経緯も示すべきではないか。
- A2：拝承，分科会での検討経緯，専門部会及び標準委員会での議論の内容等を明示するように修文する。
- Q3：今後のスケジュールであるが，次回専門部会での審議を経て，標準委員会へ報告していくことになるが，その準備などはできているか。委員からの意見の対応表は両標準とも必須である。
- A3：説明は今回同様 PPT で行うことを考えている。本日指摘いただいた事項を反映して資料の修正を行い，事前に提出させていただく。また，意見募集から 1 年以上経過しているのので，意見をくださった標準委員会委員の方に事前にご連絡（資料の送付）をおこなっておく。

## 2) 【報告】 (ATC48-4-1~4-5)

標準作成ガイドラインの見直しについて  
(担当 事務局)

事務局から ATC48-4-1~4-5 に基づき，題記について，標準委員会での意見募集の結果，意見が無かったことが報告された。また，各専門部会からの意見に対する対応及び，次回標準委員会で審議予定である旨の説明があった。

## 3) 【報告】 (ATC48-5)

基盤応用・廃炉技術専門部会 分科会活動状況について

各分科会の代表者から ATC48-5 に基づき，分科会の活動状況について報告があった。

(担当：放射線遮蔽分科会：石川副主査，廃止措置分科会：田中(健)幹事，シミュレーションの信頼性分科会：田中(正)幹事，放出源の有効高さ評価分科会：佐田副主査)

“放射線遮蔽分科会”

- ・遮蔽コンクリート標準作成の状況とともに，原子力学会及び国際学会での発表予定が報告された。また，放射線工学部会との共催になる“放射線遮蔽設計法に係るワークショップ”の実績及び予定が報告された。

主な質疑，コメント等は以下のとおり。

Q：γ線ビルドアップ係数の英語標準はどうなっているか。(萩原部会長)

A：主査の坂本が担当しているので作成状況は不明である。(石川副主査)

C：同ワークショップには，廃止措置分科会も共催している。主催は放射線工学部会である。(廃止措置分科会田中幹事)

“廃止措置分科会”

- ・1月に第61回分科会を開催して以降コロナウィルス感染拡大の影響により、分科会が休眠状態となっていた。ただし、その間であっても策定のための作業会はテレワークで継続していた。
- ・8月下旬よりテレワークによる分科会開催の準備を進めた。この中で、分科会をテレワークで開催するための手引きの作成を行った。
- ・10月中旬に委員によるweb会議システムへの接続試験を実施した。
- ・10月21日にテレワークで第62回分科会を開催した。次回は12月の予定であり、こちらもテレワークで実施する予定である。

“シミュレーションの信頼性分科会”

- ・資料に基づき、前回からの進捗として、日本機械学会誌「特集 V&V—シミュレーションの信頼性確保のために—」に「原子力分野におけるシミュレーションの信頼性確保」と題した記事を執筆し、9月号（Vol.123, No.1222）に掲載された旨を報告した。

“放出源の有効高さ評価分科会”

- ・コロナ禍で中断していた分科会を8月より再開。数値モデル計算実施基準の改定について取り組んでおり、8月は新知見及びV&Vガイドラインに準じた不確かさ導入について、10月は改定原案全般について議論している。

主な質疑、コメント等は以下のとおり。

Q：数値モデル実施基準については、改定の要否について議論しているのか。

A：対応しているものと考えており、確認する。

（確認結果）本年1月28日の専門部会にて、5ヵ年計画と合わせて報告済み。

4) 【報告】 (ATC48-6-1~6-3)

標準策定5ヵ年計画の公開に向けて

(担当：事務局)

事務局からATC48-6-1~6-3に基づき、題記標準策定5ヵ年計画の公開について及び、次回標準策定基本戦略タスクで審議後、標準策定5ヵ年計画の変更について依頼する旨の説明があった。

6. 今後の予定

次回は、2021年02月05日（金）9時30分から予定。

以上